

白亜紀の地層が育てる タイ東北地方のタピオカ芋



ナコンラチャシマ、コンケン、カラシン

SWIジャパン株式会社
和田 洋人



コラート化石博物館



畑の中の恐竜発掘現場



恐竜発掘現場



恐竜発掘現場状態展示

ナコーンラチャシーマー(コラート) の紹介



バンコクから北東へ約259キロメートル、タイ東北地方（イサーン）最大の都市にしてその玄関口に位置するナコーンラーチャシーマー（通称コラート）は、イサーン地方ならではの人々の温かみ、のどかな風景、辛くて素朴なイサーン料理を楽しむことができます。

また周辺は奥深い歴史を有する地域としても知られ、ピマーイやパノムワンなどクメール王朝時代の貴重な遺跡群、バーン・プラサートで発掘された先史時代の墳墓などが残されています。

また、世界自然遺産カオヤーイ国立公園の豊かな森林が広がる県西部は、数々の美しい滝や、象、サンバーシカ、ホエジカといった野生動物、サイチョウなど希少な野鳥が見られ、トレッキングやバード・ウォッチングなどにおすすめです。近年は公園へのアクセスに便利なパークチョン市にもリゾートホテルやゴルフ場、観光牧場やワイナリーなどがつくられ、注目されています。

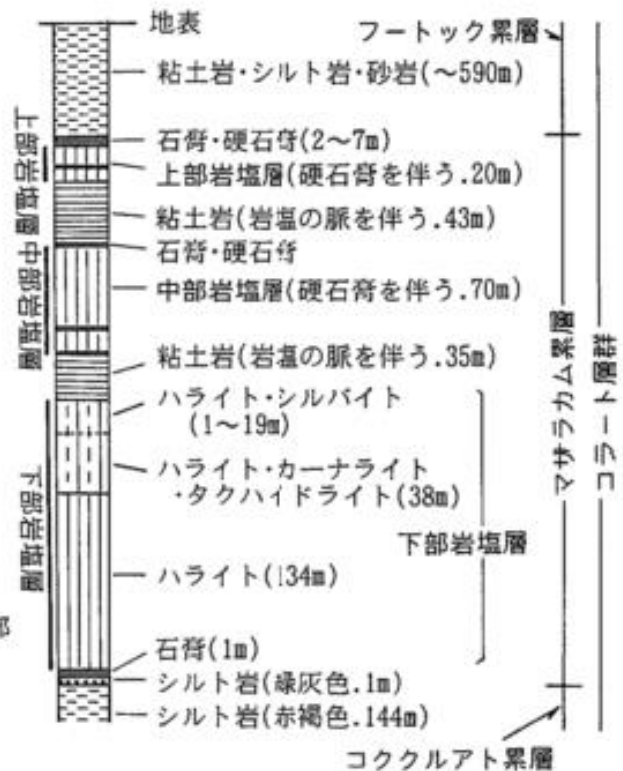
また、パクトンチャイ・シルク村、ダーン・クアン陶器村などでつくられる伝統工芸品も人気です。

コラートジオパークの魅力

コラートジオパークの壮大な景色はバンコクからカオヤーイという山を通り抜け、コラートに近づくとテーブルマウンテンのような「ケスタ」と呼ばれる、2つの層の衝突によってできた特異な形状大地が見えてきます。上の層が隆起した後、風化し穏やかな斜面になりましたが俯瞰すればややラオス側に傾いている。ここで、古代ゾウをはじめ恐竜や珪化木など、沢山の化石が発掘されています。ゾウの化石は、世界中で発見されている22種のうち、7種がコラート地域で発見されているそうです。



- 玄武岩 (鮮新-更新世)
- マサラカム累層
- コククルアト累層
- カリ塩を確認したボーリング孔
- コラート層群中・下部
- 先コラート層群



コラート台地、コラート高原とも）は東南アジア・タイ、イサーン地方（東北部）にあります。イサーンは地方名、コラート台地は地形名称として使われています。

また、コラートはナコーンラチャシーマー県の県庁所在地の俗称であり、ナコーンラチャシーマーに入ったとたん平地であるかのような台地であることからこの名称が生まれました。

コラート台地の平均高度は200mで、155,000km²の面積を有しています。台地はソーサー状になっているが、やや傾いておりメコン川に流れ込むムーン川とチー川に削られ、バンコク側と言うよりも、むしろややラオス側に向かって傾いています。

台地の西側にはペッチャブーン山脈が広がっており、これがコラート台地とタイ中部・北部を分け隔ててます。コラート台地の北側および東側はメコン川が流れていて、これが台地の境界線となっています。台地南側にはカンボジアとの国境線でもあるダンレック山地があり、これが台地南部の境界線をなしています。モンスーンが西南部から来るのに対し、コラート台地の東側と南側には山地があるため、コラート台地はモンスーンから遮断され降雨量が少なくなっています。例を挙げればタイ中部の年間平均降水量が1500mmである一方で、台地の南西部に位置するナコーンラチャシーマー県では年間平均降水量が1150mmとなっています。

さらに、コラート台地はタイの他の地域に比べ、水はけの悪い土壌で出来ているため、洪水と干ばつを繰り返しやすい性質を帯びていました。これは近年開発が進められ農業技術が整うまで、コラート台地（あるいはイサーン）に大きな影響を与え続け、イサーンを貧困地域にしてきた要因でした。

白亜紀の地層で栽培されるタイ東北地方のキャッサバ

そのコラート台地に、現代では荒れ地・枯れ地に耐性のあるキャッサバが盛んに植えられ、農民が定収入を得る持続可能な穀物栽培となっています。

現在の東北地方キャッサバ名産地であるコラート、コンケン、カラシン辺りは荒れ地・枯れ地が多く、それは白亜紀の地層が露出しているため、その土壌がタピオカ芋を育てています。そこでは度々キャッサバ畑を開墾していて、また畑を鋤で畝を作っている時大理石化した植物の巨木化石や古代ぞうや恐竜の骨が数多く発掘されています。白亜紀前期(約1億2千万年前)のコク・クルアト層が、そこに表出しているからです。

コラートではナコーン・ラチャシーマ・ラジャバット大学附属珪化木鉱物資源東北調査研究所(通称:コラート化石博物館)が建設され、多くの巨木化石と恐竜の骨が保管・展示されています。またコンケン、カラシンにも恐竜博物館があり、発掘された恐竜の骨が展示されています。

白亜紀の地層で栽培されたタイ東北地方のタピオカ芋、益々この素材が魅力的に思えてくるではありませんか。



東北地方(下地図上の黄緑部分) の恐竜化石博物館

コンケン恐竜博物館



今にも動き出しそうな恐竜の骨

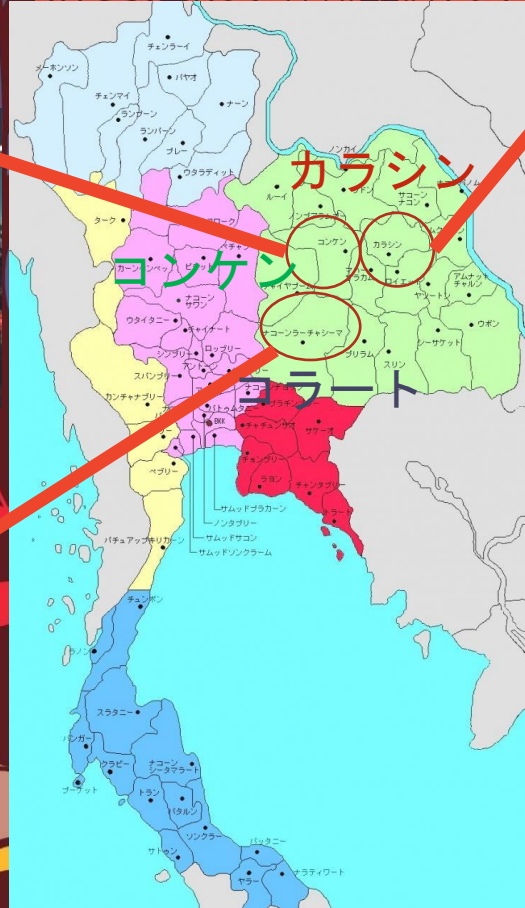
コラート化石博物館



駐車場を降りると、早速恐竜フィギアがお出迎え(艸)



庭のオブジェとして珪化木展示!



カラスン恐竜博物館



Siamotyrannus isanensis



Siam(タイ)のティラノ Tyrannosauridae、またIsannensis (イサーン地方)の名が入っている。



大型・小型、肉食・草食様々な恐竜の骨が発掘されている。



発掘現場をそのまま展示しているところもある!!



化石の収集研究室

東北地方の恐竜化石博物館：弊社工場から最も近いコラート化石博物館



カ

珪化木silicified wood/
樹幹が珪質化した植物化石



堆積(たいせき)物中に埋没した樹幹に、水に溶けたケイ酸分($\text{SiO}_2 \cdot n\text{H}_2\text{O}$)が細胞内や細胞間のすきまに浸透・沈着したのち、珪酸鉱物を晶出したもの。

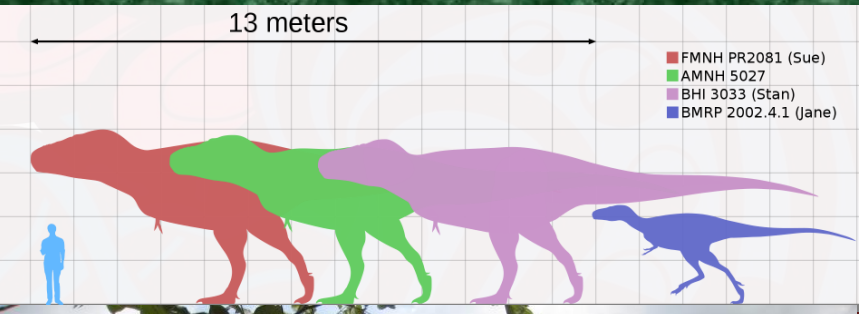


5mの巨木化石



巨木化石

キャッサバ畑から発掘された恐竜 No.1：シャムラプトル

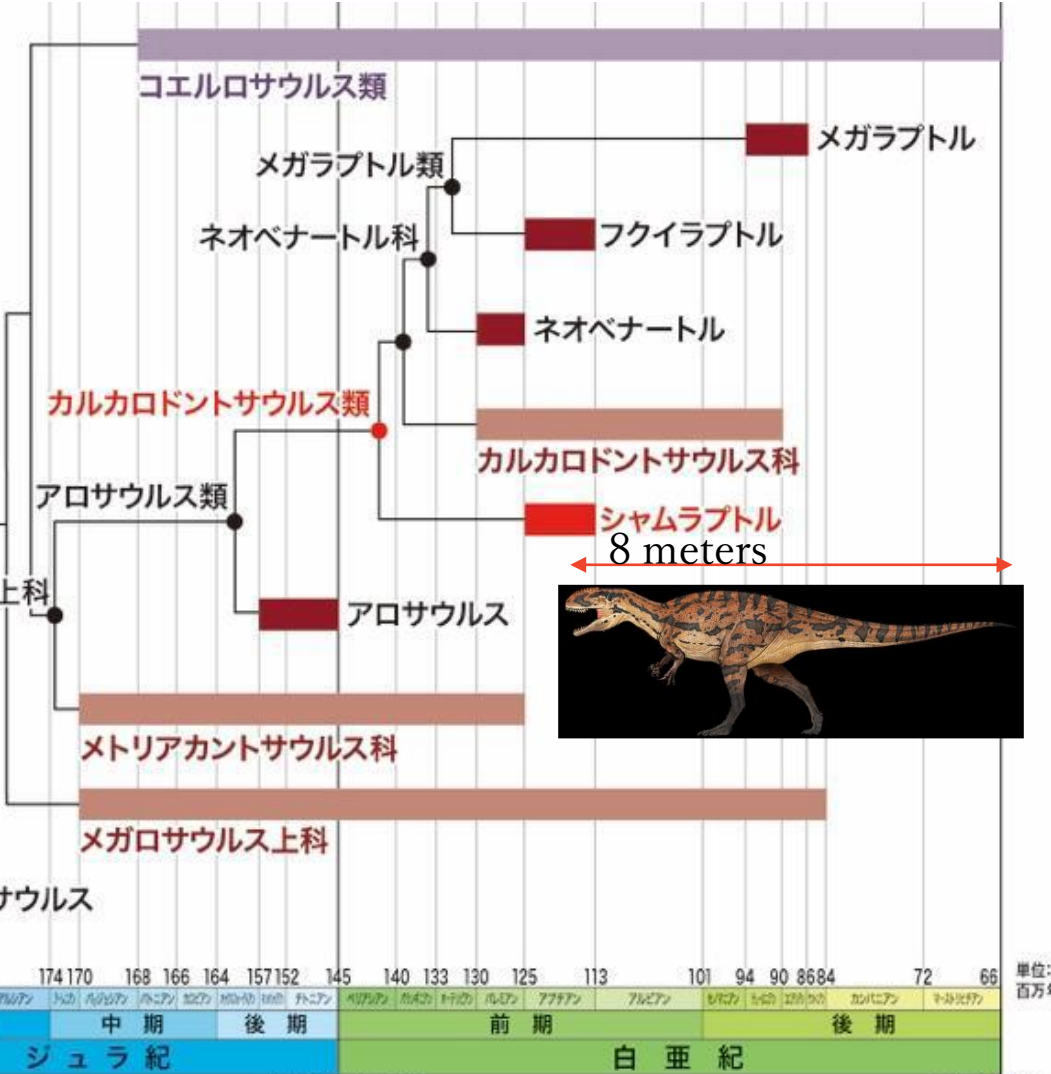


福井県立恐竜博物館とナコーン・ラチャシーマ・ラジャバット大学附属珪化木鉱物資源東北調査研究所（通称：コラート化石博物館）との共同発掘調査で大型肉食恐竜の化石を発見

カルカロドントサウルス類 獣脚類 Siamraptor suwati (シャムラプトル・スワティ)



赤土で育つと芋の表皮の色も赤くなる。



赤い表皮の芋



キャッサバが植えられている畑
赤い土壌の地層発掘現場



キャッサバ畑から発掘された恐竜化石 No.2

福井県立恐竜博物館とコラート化石博物館との共同発掘調査

ナコーン・ラチャシーマ県コラート、クロック・ドゥアン・八村 発掘地層：白亜紀前期(約1億2千万年前)のクク・クシアト層

写真提供：福井県恐竜博物館



キャッサバ畑から発掘された恐竜化石 No.2

福井県立恐竜博物館とコラート化石博物館との共同発掘調査

ナコーン・ラチャシーマ県コラート、クロック・ドゥアン・八村 発掘地層：白亜紀前期(約1億2千万年前)のкок・クルアト層



写真提供：福井県恐竜博物館

当社取り扱いタピオカでん粉

白亜紀の地層で栽培されているタイ東北地方のタピオカ芋、当社はこの芋からタピオカでん粉製品を製造し、皆様にお届けしています。

